

3, 障害者支援 (参加者：9名)

テーマ：誰もが暮らしやすいまちづくり

進行役：永松 学氏 (京都市西京区社会福祉協議会)



- ・洛西は障害に理解のある地域，住民が多い。それは交流の場や機会（清掃，地域行事等）が確保されているからではないか。これに甘んじることなく，さらなる理解を得るための取組を増やす努力をすべき。
- ・RCVに手話通訳番組があり，地域情報は得やすい。
- ・障害の有無に関係なく住民同士の支えあい，知り合うことが重要。
- ・一方的にならないように気を付けながらも，積極的に触れ合おうとすることが大切。
- ・学生のマナーの悪さが目立つ（ノーブレーキで坂道を下るなど）。
- ・障害者が暮らしやすいまちづくりは，高齢者が暮らしやすいまちづくりに通ずる。



4, 環境保全 (参加者：12名)

テーマ：緑と水の保全をすすめよう

進行役：佐藤 友一氏 (まちの縁むすび事務所)



- ・楽しく公園を利用，活用するために，行政と住民がもっと話し合う場が必要。特に樹木の剪定について，剪定し過ぎている樹木が公園だけでなく各所で見られ，緑のガイドラインの整備が求められる。
- ・「児童公園」の「児童」を外し，どの世代も気軽に利用できるように。
- ・道路環境整備が進んでいるが，同程度に環境への投資が必要。
- ・西山を含めたNTの姿をもっと広報すべき。
- ・環境保全を通して人々のつながりが生まれる。



5, 人々の交流 (参加者：12名)

テーマ：幅広い住民同士の交流を

進行役：西田 洋之氏 (京都市市民活動総合センター)



- ・交流拠点の確保が第一。幅広い世代，あるいは世代ごとが気軽に集まれる「NTの広場」が必要。自分たちでもどんどん居場所を作り，普段から交流することが当たり前の状況をも作りたい。多様な世代を呼ぶには，託児所付きの拠点が望まれる。ただし，拠点を確保するだけでなく，来やすい雰囲気作りも併せて求められる。
- ・交流することは，情報を得たり発信することにつながる。ちょっとしたあいさつ・やりとりをはじめ，出会いのチャンスを逃さない。
- ・人材バンクを立ち上げ，人々及び団体を結び付けていきたい。



アンケートから

- ・意外と同じことを考えているような人がいるんだと分かり嬉しかった。
- ・答えが出るものではないが，色々な状況や今後の課題を生々の声で聞き，皆で共有できる良い機会だった。
- ・ニュータウンの情報発信が弱いと感じた。RCVに協力を。
- ・公園がありながら遊具が少なかったり人がいない状態は不気味で淋しい。
- ・若い世代も文化的な施設を求めているのは，私達と同じだと共感した。
- ・施設や設備を新しく増やす案ももちろん大切ではあるが，今ある環境の中ですぐにはできること，順を追って具体的に行動に移せることを話し合う必要があると思う。
- ・支援者同士のつながりや相互理解を目的としたトークができると良い。
- ・若い世代は共働きも増え，保育園，幼稚園とも各々の活動もあり忙しいと思う。
- ・自治会等各種団体に所属するのが苦手な理由を知りたいと思う。
- ・住居が古いとの話が出た。このことは少し深めるべきではないか。
- ・子育て世代に今回の企画は十分に広報されていない。テーマを絞って何回かに分けて企画すると，都合の悪い方もどこかに参加できるのでは。



犬童 佳苗氏 (西京区)



三嶋 のり子氏 (向日市)



西村 元氏 (西京区)



安枝 英俊氏 (京都大学大学院工学研究科助教)



大熊 晋氏 (右京区)



- ・ニュータウン内は樹木が多くて，公園が広く，歩道も充実しているので，ぜひその環境を活かしてウォーキングやピクニックなどの行事をすると良いと思う。
- ・ベッドタウンとしてこれまで機能を果たしていたが，これからは住民の交流を通して地域としてのつながりを深めなくては。地域力を高めるための方策を。
- ・オジサンパワーがすごい!
- ・「仲間とつながりたい」，「文化の香りを…」，「子どもの遊具が…」など，納得する声が多く聞けて良かった。
- ・今後の地域運動に参加できそうだ。



深川 光曜氏 (中京区)



田尾 純子氏 (大阪府)



まとめ



「どうなれば洛西ニュータウンに住みたいか，住み続けたいか？」とのご質問もいただき，大変盛り上がったまちづくりトークでした。今回は子育て世代にスポットをあてましたが，地域活動，高齢者の力，楽しい文化的な仕掛けなど，まちづくりについて幅広いご意見をいただくことができました。これらのご意見をこれからのまちづくり活動に活かしていきたいと思えます。積極的なご参加ありがとうございました。